

2021年8月24日

愛媛工場と韓国で半導体用高純度ケミカルの生産能力を増強

住友化学は、このたび、半導体用高純度ケミカルの製造ラインを増設し、生産能力を強化することといたしました。愛媛工場（愛媛県新居浜市）で高純度硫酸の生産能力を約2倍に引き上げるほか、当社100%子会社である東友ファインケムの益山工場（大韓民国全羅北道益山市）では、高純度アンモニア水の生産能力を約4割増強します。新製造ラインの稼働開始について、愛媛工場は2024年度上期を、東友ファインケムは23年度下期を予定しています。

住友化学は、半導体用高純度ケミカルについて、1978年に千葉工場（千葉県市原市）で硫酸や硝酸などの生産を開始して以降、愛媛工場では91年に硫酸の生産を始め、現在は日本・韓国・中国で事業を展開しています。半導体製造で精密洗浄などに用いられる高純度ケミカルは、その製造工程で金属や有機物などの異物が半導体の品質・歩留まりを低下させないように、不純物をppt（parts per trillion=1兆分の1）レベルまで低減する超高純度化技術が求められます。当社の製品は、生産から輸送までの徹底した不純物排除によりそうした厳しい要求を満たしていることに加え、微小不純物分析技術に基づく品質保証体制を確立していることから、品質安定性に強みを有しています。また、顧客の先端製造ラインへの長年の納入実績や、需要増加に対応した機動的な供給体制整備により、国内外の半導体メーカーから高い評価を受けています。韓国では東友ファインケムが平澤工場と益山工場の2拠点で事業を展開し、中国では住化電子材料科技（西安）有限公司および住化電子材料科技（常州）有限公司が製造・販売を行い、顧客の工場立地に根ざした供給体制をグローバルに構築しています。

半導体デバイス市場は、第5世代移動通信システム（5G）対応スマートフォンの普及に加え、ライフスタイルの変化に伴うパソコンやデータセンター関連機器の需要増加を背景に伸長を続けており、その製造工程に不可欠な高純度ケミカルの需要は今後も堅調な拡大が見込まれます。旺盛な半導体需要に対して、今回の愛媛工場および東友ファインケムでの生産能力増強により、安定供給を果たしていく考えです。

住友化学は、経営として取り組む重要課題（マテリアリティ）の一つに「ICTの技術革新への貢献」を掲げています。引き続き、高品質な製品の安定供給を継続し、Society5.0に代表されるスマート社会やスマートモビリティの実現に欠かせない半導体産業の発展に貢献してまいります。

<東友ファインケムの概要>

会社名	Dongwoo Fine-Chem Co., Ltd.
本社所在地	大韓民国京畿道平澤市
代表者	羅 仁 鎬
設立年月	1991年12月
事業内容	半導体用プロセスケミカル、フォトレジスト、光学機能性フィルム、カラーフィルター、タッチセンサーなどの研究、製造、販売

以上